

(財) 原子力環境整備促進・資金管理センター

第11回 最終処分積立金運用委員会 議事録

1. 日 時 平成18年2月1日(水) 13:30~15:00
2. 場 所 東京都港区虎ノ門4-1-1  
虎ノ門パストラル 本館8階 けやきの間
3. 委員の現在数 4名
4. 出席した委員の数及び氏名  
委員長 若杉 敬明  
委 員 中村 実  
委 員 山崎 元  
以上 3名 出席
5. 議 題
  - I. 平成17年度最終処分積立金運用実績(1月末現在) (報告)
  - II. 平成18年度最終処分積立金運用方針及び計画 (審議)
6. 開 会  
事務局から、本日の最終処分積立金運用委員会は同規則第4条の規定による定足数を満たしているので、有効に成立している旨の報告があった。  
続いて、板倉治成理事長から挨拶を述べた後、経済産業省放射性廃棄物等対策室長の吉野氏よりご挨拶を頂き、委員長は議事に入った。
7. 議事の概要  
資金管理業務部長から、上記5.の議題について下記の説明を行った。
  - I. 平成17年度最終処分積立金運用実績(1月末現在)  
平成17年度運用額は、平成16年度積立分受入分から原環機構への取戻額を差し引いた額に、当期の利息収入を加えた636億円を見込む。  
運用内訳は、国債、政府保証債、地方債、事業債とも、ほぼ計画通りの運用を達成できる見通し。

平成17年度購入債券の平均利回りは、単年度の運用評価基準としての‘当該年度の運用計画をベースに加重平均した国債応募者利回り’を上回る見通し。

\* 平成17年度運用対象期間は平成17年3月から平成18年2月まで。

上記Ⅰ.の報告について了承した。

## Ⅱ. 平成18年度最終処分積立金運用方針及び計画

運用の基本方針である（1）長期的に安全確実性を重視した運用（2）割引率を目標とした運用収益の確保（3）市場への影響に配慮、に基づき、平成17年度運用方針及び計画を踏襲し、平成18年度最終処分積立金運用方針及び計画を取り纏めた。

上記Ⅱ.の議題について審議した結果、了承した。

## 8. 次回スケジュール

平成18年5月下旬もしくは6月上旬を目途に開催したい。

## 9. 閉会

以上をもって議事全てを終了し、委員長は閉会を宣した。

〈委員会で寄せられた意見〉

## Ⅱ. 平成18年度最終処分積立金運用方針及び計画

- 政府保証債のウェイトを減らし、社債等のウェイトを増やすことについては、政策金融改革の方向性や、景気の回復等の要素を考慮すると、妥当なのではないか。
- 経済状況の改善が進んではいるが、特別な相場観に基づいて運用するようなことはせず、今後の金利動向等に十分注意を払いつつ、計画案通り、資金受入後すみやかに運用を図るということで良いのではないか。
- 単年度の運用評価基準に加えて、‘当積立金運用開始以降の各年度の運用計画をベースに加重平均した国債応募者利回り’を累積の運用評価基準として新設することについては、複数の評価基準を持つことで、より多面的に運用状況を評価できるようになるという点で、妥当なのではないか。

